
嘘という名の真実

ノスコード

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

嘘という名の真実

【Nコード】

N9916J

【作者名】

ノスコード

【あらすじ】

光山高校に入学することになった神山翔太と篠原清香。全く関係のなかった二人がゆっくりと……………。

はじまり（前書き）

初めて投稿するのでいろいろと我慢して読んで頂いてくれると嬉しいです。

はじまり

あなたは死んだ人からのメールが来たらどうしますか……………。

喜びますか？

怒りますか？

それとも……………。オレはハルとの出会いはあって良かったと思う。

だからこの高校を選んだのも間違ってたと思う……………。

そう信じたい。

信じたかった……………。

高校一年生の春、神山翔太は光山高校に入学した。

「ねみ〜。」

だるかった。

なんせ春休みの間ゲームしかしてなかったならこんな朝はやく起きたのは久し振りだった。

「確かにな〜……………だるい。」

「いやいやお前らがただバカなだけだろ？」

この2人土橋狹屋と中田焦は中学からの付き合いで野球部に入っていた。

「クラス発表されるみたいだよ。」

狹屋が言ってクラス表を見始めた。

それに続きオレと焦もクラス表を見る。

「どうやら三人違うクラスみたいだな。」

「そうみたいだな。」

まじか!!

正直どつちか一人とは一緒になつてきたかった。クラスに馴染めるきはしなくなってきたしまった。

「まじで……………」

はじまり（後書き）

これから頑張っていくので感想やアドバイス等よろしくお願いします。

1年4組

「じゃあまた後でな。」

そっぴい2人と別れた。

4組か。

悪くはないなと思ひながら教室に入っていく

とりあえず自分の席につく。

出席番号23番……。

「っえ？」

思わず声が出てしまう。

いやあり得ないだろ。

オレか行だぞ！

はじめの、なのに……っえ？「あり得ないよな。」

不意の言葉に驚いてしまった。

「なにが？」

なんとか普通に保って聞いた。

「出席番号だよ。俺織田慎也って言うんだけどさ出席番号22番だぜ。はじめてだよこんな後ろ。」

ってことはオレの前か。そうこうしているうちにチャイムが鳴る。

「はあゝい席について。今年1年このクラスの担任の蓮実楓です。うゝんととりあえず色々なことは後にしてこの後はすぐ始業式だから体育館に移動して話はその後で。」

先生が言つた後教室をでた。

それに何人かの生徒もついて行つた。

「じゃあオレらも行くか。」

いやいやオレらってそっぴい関係だっけ？

「そっぴいな。」

まあ、
いつ
か。

ふっ

始業式がはじまる。

少し残念だった。

高校だから少し変わるかと思ったら全然変わってない。

違いがあるとしたら、校長の話の長さぐらいだ。

あれはほんとに話か？演説の間違いじゃないのか？

辺りを見渡すと既に視線が下の奴がいたるところにいる。やっぱりそうだな。こんなの聞くのは真面目なやつただけだな。隣で寝る奴もいるし、オレも寝るか。

目を閉じようとしたその時、校長の話が終わった。

………そんなもんだな

おかげで真面目くんを貰けたわけだし。

始業式が終わり教室に戻る。

軽い先生の話があり初日の学校は終わった。

………疲れたな

委員会と係ぎめ

次の日、いつものように家をでる。

そしたらいつもの2人が待っている。

「「ウース」」

2人が声をそろえる。

「よ」

いつものように今日1日がはじまる。

歩いてる途中に焦が

「委員会どうするか決めた？お前ら。」

委員会か！！

.....。

めんどいな.....。

「オレは体育委員だな。」

と狹屋が言う。

「やっぱお前もか！！。」

焦もどうやら体育委員らしい。

それもそうか。

中学3年間体育委員やって委員長と副委員長だもんな。

「翔太はどうすんの？」

「うーん。入らないかな。」

「またかよ。おい。」

中学のときオレは委員会に？回も入ってなかった。
我ながら感心するよこれは。

学校につき2人と別れ自分のクラスに入る。

この時は自分が委員会に入るなんて思ってもなかった。

委員会と係ぎめ（後書き）

感想等いろいろ待っています。

○○委員会（前書き）

かなり更新遅れてしまいました。

。。委員会

「はい、じゃあ委員会と係を決めたいんだけど……。じゃあ黒板に何に入りたいか書いて重なったらそのとき考えますから。」クラスみんなが動き黒板に書き始める。

だが俺は委員会に入るきもないから関係ない。

……。寝るか。

……。

「翔太起きろ。そして黒板を見る。」

「なんだよ。黒板って……。えっ？」

顔を上げて黒板を見てみるとなんとクラス委員に任命されていた。

「なんで俺なんだよ。」

「よく係と委員会みてみな。」

と慎也が言ってきたのでよく見てみる。

「分かったろ。お前は余りもんを貰ったんだよ。」

……。確かに誰もかぶってない。

「今日放課後早速クラス委員あるから遅れるなよ。」

……。あゝあやっちまったな。

クラス委員（前書き）

久しぶりです。

クラス委員

帰りのホームルームが終わる。

「ハア〜。」

溜め息をしながら席をたとうとする。

「クラス委員になった神山君だよね？」

顔あげると1人の女子。

「そうだけど。」

「良かった〜。間違えてたらどうしようかと思ったよ。私、女子のクラス委員の栗山知花です。よろしく。」

そっか!!クラス委員は男女1人づつか!!助かった〜。

「神山君？」

反応のないオレに栗山さんは顔を覗き込む。

「ごめん。ごめん。神山翔太です。よろしく。」

とりあえずいい子そうに喋ってみた。

「よろしくね。」

……………かわいい。

間違いない。中学の頃はこんな可愛い子みたことない。

「もうあんま時間ないし委員会いこ？」

「……………」

「神山君？」

「っ!!ああ〜そうだね。場所どこだっけ？」

「視聴覚室だよ。」

そうして2人はクラスをでた。

「……………クラス委員で良かったかも。」

なんて思いつつ向かった。

そして委員会で爆睡して栗山さんに怒られた。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9916j/>

嘘という名の真実

2011年10月6日19時19分発行